



神奈川県警

地域住民の安全へ、移動する小さな交番

「アクティブ交番」導入

アクティブ交番は動く交番です。地域住民の安全・安心を高めるために導入される車両で、機動力を活かしてパトロールを行うとともに、担当地域内にある小学校、公園などを巡回して交番を開設し、交番と同様の業務を行います。

神奈川県内では、令和6年度までの5年間に32台(事業費1億3356万円)を配備しています。

交番は、明治時代に導入され地域住民の良好な治安を維持するための日本警察が世界に誇る制度です。

その業務は落とし物や各種相談などの届出を受理する場所とともに、事件・事故などにいち早く対応すべく警察官が待機する拠点でもあり、良好な地域の治安を維持するための施設です。

一方で、昨今のスマホの普及や24時間店舗の増加、防犯カメラの整備や都市開発、交通網の整備に伴い、交番の設置場所や配置人員など、交番の在り方が見直されています。

神奈川県警は2019年3月、交番の再編統合を策定

治安状況に見合った交番の場所や数を再整備し、県内に470か所あった交番等施設を10年間で400程度に統合し、アクティブ交番の配備を進め、地域住民と共に安全で安心して暮らせる地域社会の実現に取り組んでいます。

アクティブ交番で行われている業務は

従来の遺失物や拾得物の届出受理、各種相談の受理、防犯啓発などの業務の他に、事件事故の多発する場所での駐留警戒や登下校時間帯の通学路における子供たちの見守り活動、夜間におけるパトロールなど、犯罪の抑止の対応を図ります。

磯子区は7か所で開設

磯子区では1台を導入し、磯子警察署が定めた時間に磯子レインボーハイツ6-1号棟前、森町公園、神奈川県神社庁駐車場、洋光台駅前公園、洋光台北団地集会所駐車場、上中里団地集会所駐車場、岡村公園の7か所に開設されています。



アクティブ交番で業務する警察官



駅前や小学校に開設 写真/神奈川県

交番整備基本計画では10年間で交番数を470か所から400か所に再整備する事が示されており、磯子区でも令和2年度に間坂交番が統合されました。

スマホなどの普及により直接交番に立ち寄る人の減少や、特殊詐欺などへの対策強化が求められ交番勤務員の増員が困難になっているなどの現状を考えると、県民の皆さんも計画には一定の理解を示されると思いますが、安全安心のシンボルである「交番」の統合には、地域の治安に不安をもたれることと思います。

統合された地域には、交番の利便性と安全性の維持・強化へ向けて車両型アクティブ交番の整備を進め、機動力を生かした活動により住民のニーズに迅速かつ柔軟に対応した地域の安全・安心の確保へ、県政は治安対策にしっかりと取り組んでいかなければなりません。

まだ、アクティブ交番の機能や役割が多くの県民に浸透しておらず、理解と啓発活動に私は努めてまいります。



あらい絹世の 歩いて見る！ 磯子のまち あれ？ これ？

汐見台(1~3丁目) (〒235-0022) 人口：7,841人 世帯数：3,376世帯 (令和6年10月現在)

汐見台団地は、1963(昭和38)年6月から神奈川県住宅供給公社の団地として建設が始まりました。当時、根岸湾埋め立てとともに作られた工場群に働く工場勤務者の社宅など、約75haの開発面積に約16,000人が暮らす職住近接都市として、後世のモデルとなるような理想的な団地造成への基本指針を設定し、海外の住宅地などを参考に開発されました。

指針では、周辺の景観保護や塩害防止のために電線類を埋設した無電柱化や大型公園(久良岐公園)、バスケットコート、テニスコート、児童公園などの公園を充実させ、造成には地形の変化を最小限に抑え、団地内は起伏が大きく屏風浦駅方面の街路はトンネルが設けられました。その後の多摩ニュータウン、千里ニュータウンのモデルにもなつたと言われています。完成当初、子ども達は浜小学校、浜中学校に通っていましたが、団地内に1967(昭和42)年に汐見台小学校が開校、1970(昭和45)年に浜中学校汐見台分校から汐見台中学校が汐見台にそれぞれ開校し通学するようになりました。

宇宙飛行士の野口聡一さんは小学5~6年の2年間を汐見台小学校に通っていました。

汐見台には団地が完成した頃から総合病院や郵便局のほか商店会があります。近年は、当初の開発目的から公社住宅だけでなく根岸湾の工場群の社宅が多かったのですが、社宅の建物老朽化や企業の福利厚生施策の変化などから、民間分譲マンションに建て替えるケースも増えてきています。

「神奈川県庁舎 各階」

産業労働局 商業流通課

産業労働局商業流通課は、商業・商店街の活性化及びまちづくりを担う商業人材の育成に関する事業や中小小売商業振興法に基づく商店街整備計画等の認定などを担っています。当課では、「商店街魅力アップ事業費補助」を行っており、商店街団体等が商店街の魅力を高めるために行う事業を支援しています。

磯子区でもこの補助を活用しています。年に4~5回ほど開催される商店街のイベントには、毎回1,000人ほどが訪れるほどの大盛況を見せるJR洋光台駅前の商店街「サンモール洋光台」では、この補助を活用し脱炭素社会の実現に向けた取組を行っています。商店街の大広場で大道芸によるパフォーマンスや出店が並ぶ中、アルミ缶30缶持参すると福引き補助券などを進呈し、空アルミ缶などを商店街の店舗で回収する商店街脱炭素の取組を行い、子どもから大人までが一日楽しめるイベントを行いながら多くのアルミ缶が集まっています。同商店街は、県が行う商店街等活性化促進にも協力しており、商店街等活性化促進事業補助を活用し、商店街で利用できる商品券の発行を12月から行います。

また、県では、優れた取組を行っている商店街や飲食店、小売店舗、商店街の活性化・地域商業の振興に努めている商店街の役員の方などを対象として表彰を実施しています。

その表彰の一つの「かながわ商店街大賞」は、神奈川県内の頑張っている商店街の優れた取組みを表彰し、改めてより多くの県民に商店街の役割や魅力を知って貰うと共に、他の商店街に参考としてもらい県内の商店街全体の活性化に寄与することを目的とするものです。

平成25年第二回かながわ商店街大賞では、地元密着を基本に雨にも負けないビル内の商店街の特性を生かし、地元小・中学校の定期的な演奏会や商店街プロレス、動く大恐竜展の他、東日本大震災後には被災した気仙沼商店街の復興支援に努め姉妹商店街協定を結んだ「プララ杉田専門店会」が準大賞に選ばれました。



地元の小・中学校の生徒による和太鼓演奏とサンモール洋光台の商店街プロレス 写真/各商店会

昭和43年 横浜市磯子区生まれ。 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業。

日商岩井株式会社に8年、株式会社メタルワンに5年勤務。

平成23年 神奈川県議会議員選挙 初当選 以後連続4期トップ当選。

県民スポーツ常任委員会・厚生常任委員会・予算委員会など各委員長を歴任。

現在 厚生常任委員会委員、予算委員会委員、議会運営委員会委員、自民党神奈川県連副幹事長。

